

# 伊保廃寺発掘調査報告書



2022. 3

名古屋大学大学院人文学研究科考古学研究室



# 伊保廃寺発掘調査報告書

2022. 3

名古屋大学大学院人文学研究科考古学研究室





巻頭図版1 9トレンチ瓦列（東より）





卷頭図版2 伊保廃寺基壇遺構合成写真





# 例 言

1. 本書は、愛知県豊田市保見町六反田に所在する伊保廃寺（伊保古瓦出土地・伊保白鳳寺）の発掘調査報告書である。本遺跡の名称は「伊保古瓦出土地」であったが、本調査により寺院跡であることが判明したため、遺跡名称を「伊保廃寺」と改称した。
2. 調査は、文部科学省科学研究費基盤研究（B）「古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究」（2017～2021年度。課題番号17H02414。研究代表者：梶原義実）における事業の一環として、名古屋大学大学院人文学研究科准教授（2021年度より教授）梶原義実が担当し、同教授古尾谷知浩がこれを補佐し、豊田市の協力を受け実施した。

科研事業には研究分担者として三舟隆之（東京医療保健大学医療保健学部教授）、尾野善裕（独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館学芸部長）、古尾谷知浩が、研究協力者として森泰通（豊田市生涯活躍部専門監）、永井邦仁（愛知県埋蔵文化財センター）、大西遼（愛知県陶磁美術館）、望月（大塚）友恵（NPO法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク）、井上隼多（名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程）が参加した。

3. 調査は、名古屋大学文学部・大学院人文学研究科における「考古学実習」「考古博物館実習」「文化資源学」「フィールド調査実習」の一環として実施した。
4. 2017年度調査は2017年8月21日から9月4日にかけて実施し、井上隼多・植木萌・西本茉由・坂野実・山内良祐（名古屋大学大学院人文学研究科）、児玉栞・立田渉・庄司のどか・星川香理・鈴木美穂・深澤碧・吉田茉由（名古屋大学文学部）、古田成美（南山大学大学院人間文化研究科）および、名古屋大学1年生（基礎セミナー受講生）、愛知県立大学学部生が参加した。

2018年度調査は2018年8月18日から9月14日にかけて実施し、市川彰（名古屋大学助教）、井上隼多・山内良祐・林順（名古屋大学大学院人文学研究科）、鈴木美穂・深澤碧・吉田茉由・河合慶仁・杉浦由奈・谷村茉侑奈・日比楨吾・橋本明香里・山田悠磨（名古屋大学文学部）、古田成美（南山大学大学院人間文化研究科）、三浦夕佳（名古屋大学医学部保健学科）および、名古屋大学1年生（基礎セミナー受講生）、愛知県立大学学部生が参加した。

2019年度調査は2019年8月19日から9月9日にかけて実施し、井上隼多・林順・島田莉菜・方美樺（名古屋大学大学院人文学研究科）、鈴木美穂・深澤碧・吉田茉由・河合慶仁・杉浦由奈・谷村茉侑奈・日比楨吾・橋本明香里・山田悠磨・風岡弥希・酒井大陽・高橋錬（名古屋大学文学部）、須賀永帰（名古屋大学大学院環境学研究科）、三浦夕佳（名古屋大学医学部保健学科）および、名古屋大学1年生（基礎セミナー受講生）、愛知県立大学学部生が参加した。

2020年度調査は2020年8月3日から9月1日にかけて実施し、井上隼多・清水麻里奈・相場伸彦・島田莉菜・方美樺・李昊天（名古屋大学大学院人文学研究科）、風岡弥希・酒井大陽・高橋錬・浅井飛音・今井知世・岩垂例央・久保美咲・鈴木悠介・高濱寛太（名古屋大学文学部）、須賀永帰（名古屋大学大学院環境学研究科）、三浦夕佳（名古屋大学医学部保健学科）および、

名古屋大学1年生（基礎セミナー受講生）が参加した。

2021年度調査は2021年8月2日から8月24日にかけて実施し、相場伸彦・張温舒芸・陳永強（名古屋大学大学院人文学研究科）、張睿帆（名古屋大学大学院人文学研究科研究生）、浅井飛音・今井知世・岩垂例央・久保美咲・鈴木悠介・高濱寛太・松浦愛梨・桑山真里奈・小出一磨・高井英吉・高橋杏・富田聖乃・村瀬稜治・望月咲良・若山鈴奈（名古屋大学文学部）、須賀永帰（名古屋大学大学院環境学研究科）、木元菜奈子（名古屋大学理学部）および、名古屋大学1年生（基礎セミナー受講生）が参加した。

5. 出土遺物の整理および報告書の作成は、名古屋大学文学部・人文学研究科における「考古学実習」「考古博物館実習」「文化資源学」「フィールド調査実習」の一環として、上記大学院生、学部生により実施した。
6. 本調査にあたっては、基準点測量（2017年度）を株式会社フジヤマ、調査地の伐開（2017～2018年度）を島村造園土木、表土掘削（2018年度）を株式会社三立に依頼した。また2019年度からは、調査地の伐開および表土掘削、一部遺構図の作成について、株式会社知立造園に依頼した。土壌分析および放射性炭素年代測定については、株式会社パレオ・ラボに依頼した。記して感謝の意を表す。
7. 基壇状遺構の発掘調査については、網伸也氏（近畿大学文芸学部教授）の調査指導を受けた。
8. 発掘調査および整理作業については、下記の関係者および関係研究会にお世話になった（敬称略。ご所属は当時）。記して感謝の意を表す。  
赤羽一郎（愛知淑徳大学）・秋松大允（岐阜大学地域科学部）・浅岡優（西尾市教育委員会）・安藤悦子（名古屋大学聴講生）・荒井信貴（岡崎市美術博物館）・伊藤伸幸（名古屋大学大学院人文学研究科）・長田友也（中部大学）・笥中和（株式会社知立造園）・神取龍生（幸田町教育委員会）・鬼頭剛（愛知県埋蔵文化財センター）・権田義史（豊田大谷高校）・齋藤基生（名古屋学芸大学）・新谷葉菜（名古屋大学卒業生）・中里信之（阿智村教育委員会）・北條猷示（稲沢市教育委員会）・日吉康弘（高浜市役所）・藤井良昭（豊田大谷高校）・松井貞雄（豊田大谷高校）・三好清超（飛騨市教育委員会）・村松裕南（名古屋大学大学院情報学研究科）・保見自治区・三河考古学談話会
9. 本書第1部は梶原および名古屋大学大学院生・学部生が分担執筆し、梶原が編集した。執筆分担については、目次と各文末に記した。
10. 遺構写真の撮影は梶原が、遺物写真の撮影は井上と小出がおこなった。
11. 調査記録は名古屋大学大学院人文学研究科考古学研究室で、遺物は豊田市で保管している。
12. 本書第2部については、科研事業における成果報告として、科研分担者および協力者、名古屋大学大学院生・学部生の論文を掲載した。

# 目 次

## 第1部 伊保廃寺発掘調査報告書

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の所在位置と環境	
1. 地理的環境	3
2. 歴史的環境	4
第3章 調査の概要	
1. 調査の概要	9
2. 発掘調査日誌抄	16
第4章 遺 構	22
第5章 遺 物	
1. 瓦	28
2. 土器類	37
3. 瓦塔	40
4. 鉄製品	40
5. 石器	40
第6章 考 察	
1. 伊保廃寺の遺構について	44
2. 伊保廃寺の出土丸瓦・平瓦について	52
3. 伊保廃寺出土の瓦塔について	70
付 章	
1. 伊保廃寺土壌の放射性炭素年代測定	73
2. 伊保廃寺の基壇表面の元素マッピング分析	77
3. 伊保廃寺基壇の三次元計測および Web 展示について	81
4. 土居桁建物について	88

## 付 表 目 次

第 1 表	伊保廃寺における名古屋大学の発掘調査一覧	8
第 2 表	実測図掲載遺物一覧表	41
第 3 表	伊保古瓦出土地 丸瓦型式分類表	53
第 4 表	伊保古瓦出土地 平瓦型式分類表	53
第 5 表	舞木廃寺・舞木古窯 丸瓦型式分類表	54
第 6 表	舞木廃寺・舞木古窯 平瓦型式分類表	55
第 7 表	勸学院文護寺跡 丸瓦型式分類表	55
第 8 表	勸学院文護寺跡 平瓦型式分類表	56
第 9 表	寺部遺跡 丸瓦型式分類表	57
第 10 表	寺部遺跡 平瓦型式分類表	57
第 11 表	牛寺廃寺 丸瓦型式分類表	58
第 12 表	牛寺廃寺 平瓦型式分類表	58
第 13 表	下り松瓦窯跡 丸瓦型式分類表	58
第 14 表	下り松瓦窯跡 平瓦型式分類表	59
第 15 表	測定試料および処理	73
第 16 表	放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	74
第 17 表	各ポイントの半定量分析結果 (mass%)	79

# 図 版 目 次

第 1 図	遺跡位置図	3
第 2 図	地形分類図	3
第 3 図	周辺遺跡地図	6
第 4 図	伊保廃寺 1970 年調査 瓦列写真	8
第 5 図	測量図・トレンチ配置図	9
第 6 図	1 トレンチ南壁土層断面図	10
第 7 図	5 トレンチ東半北壁土層断面図	10
第 8 図	4 トレンチ北壁土層断面図	11
第 9 図	6 トレンチ・7 トレンチ中央畦西壁土層断面図	12
第 10 図	7 トレンチ平面図および等高線図	13
第 11 図	7 トレンチ西壁土層断面図	13
第 12 図	8 トレンチ西壁土層断面図	14
第 13 図	2017 年度調査 集合写真	16
第 14 図	2018 年度調査 集合写真	17
第 15 図	2019 年度調査 現地説明会写真	19
第 16 図	2020 年度調査 集合写真	20
第 17 図	2021 年度調査 集合写真	21
第 18 図	9 トレンチ・11 トレンチ遺構図	24
第 19 図	9 トレンチ・11 トレンチ等高線図	25
第 20 図	9 トレンチ土層断面図	26
第 21 図	11 トレンチ土層断面図	27
第 22 図	軒丸瓦	28
第 23 図	軒平瓦	29
第 24 図	丸瓦	31
第 25 図	平瓦 (1)	32
第 26 図	平瓦 (2)	33
第 27 図	平瓦 (3)	34
第 28 図	平瓦 (4)	35
第 29 図	平瓦 (5)	36
第 30 図	鴟尾	37
第 31 図	土師器	37
第 32 図	須恵器	39

第 33 図	灰釉陶器・山茶碗	39
第 34 図	瓦塔	40
第 35 図	鉄製品	40
第 36 図	石器	40
第 37 図	伊保廃寺創建基壇造成模式図	44
第 38 図	伊保廃寺再建基壇造成模式図	46
第 39 図	田辺征夫氏による瓦積基壇の分類	47
第 40 図	各地の立瓦基壇	49
第 41 図	明官地廃寺にみられる排水溝	50
第 42 図	伊保廃寺 平瓦叩き目	53
第 43 図	舞木廃寺・舞木古窯 平瓦叩き目	55
第 44 図	勸学院文護寺跡 平瓦叩き目	56
第 45 図	下り松瓦窯跡 平瓦叩き目	59
第 46 図	伊保廃寺と寺部遺跡の平瓦縄叩き比較図	60
第 47 図	伊保廃寺 叩き目別重量比	62
第 48 図	舞木廃寺 叩き目別重量比	63
第 49 図	勸学院文護寺跡 叩き目別重量比	64
第 50 図	寺部遺跡 叩き目別重量比	65
第 51 図	下り松瓦窯跡 叩き目別重量比	66
第 52 図	賀茂郡域における瓦生産	68
第 53 図	昭和 45 年に伊保廃寺で出土した瓦塔	70
第 54 図	試料採取地点	73
第 55 図	測定試料の採取位置	73
第 56 図	試料 No.5-1 (PLD-41919)	74
第 57 図	試料 No.5-3 (PLD-41920)	74
第 58 図	試料 No.5-4 (PLD-41921)	74
第 59 図	暦年較正結果	74
第 60 図	試料採取位置と基壇構成層の堆積状況	77
第 61 図	分析試料断面	78
第 62 図	元素マッピング分析結果	79
第 63 図	2020 年度調査区の三次元画像	81
第 64 図	2020 年度調査区上空撮状況	81
第 65 図	2021 年度調査区の三次元画像	82
第 66 図	2020 年度調査区上空撮状況	82
第 67 図	2020 年度調査区	82

第 68 図	2021 年度調査区	82
第 69 図	スケッチファブのスクリーンショット	82
第 70 図	軒丸瓦の三次元画像	84

## 第 2 部 論考編

伊保谷と亀首谷の古墳時代	(森 泰通)	95
景観的見地からみた伊保廃寺	(梶原義実)	115
三河の古代集落と寺院		
—西三河地域を中心に—	(永井邦仁)	121
4～9 世紀の西三河地域における集落の変化		
—カマド・炉と貯蔵穴の位置関係を事例に—	(岡田紘和)	137
三河の古代寺院と造営氏族	(三舟隆之)	149
猿投窯系須恵器編年の再編と下り松瓦窯の操業年代		
—須恵器からみた西三河の鋸歯文縁複弁六葉蓮華文軒丸瓦—	(尾野善裕)	163
8 世紀前半以前の西三河の須恵器生産	(大西 遼)	187
尾張型埴輪製作技術の展開		
—東山 61 号窯と上向イ田窯を中心に—	(谷村茉侑奈)	209
愛知県春日井市高蔵寺第二号窯出土篋書須恵器の年代について	(古尾谷知浩)	224
文献史料からみた参河国賀茂郡の郷をめぐって	(古尾谷知浩)	232
古代地方寺院の造営・修理	(古尾谷知浩)	238

# 写真図版目次

- 図版 1 遺跡 1. 伊保廃寺上空から北方を望む  
2. 1トレンチ 完掘（西から）  
3. 6トレンチ 完掘
- 図版 2 遺跡 4. 1トレンチ 南壁西端土層断面  
5. 6トレンチ 西壁北端 瓦溜土層断面
- 図版 3 遺跡 6. 7トレンチ 全景  
7. 7トレンチ 瓦溜 SX1（南東から）
- 図版 4 遺跡 8. 7トレンチ 瓦列（東から）  
9. 8トレンチ北端 白色粘土の落ちこみ（南東から）  
10. 8トレンチ中央部 白色粘土層（南から）
- 図版 5 遺跡 11. 7トレンチ 旧6トレンチ西壁と7トレンチ西壁土層断面  
12. 8トレンチ北端 瓦列（東から）
- 図版 6 遺跡 13. 9トレンチ西半 全景  
14. 9トレンチ東半 全景
- 図版 7 遺跡 15. 9トレンチ瓦列（東から）  
16. 9トレンチ瓦列（西から）
- 図版 8 遺跡 17. 9トレンチ 東側断割西壁と瓦列上端に乗る丸瓦  
18. 9トレンチ 中央断割東壁
- 図版 9 遺跡 19. 9トレンチ 西側断割西壁  
20. 9トレンチ SD1 北肩完掘（西から）
- 図版 10 遺跡 21. 11トレンチ 全景  
22. 11トレンチ瓦列（南から）
- 図版 11 遺物（1）
- 図版 12 遺物（2）
- 図版 13 遺物（3）